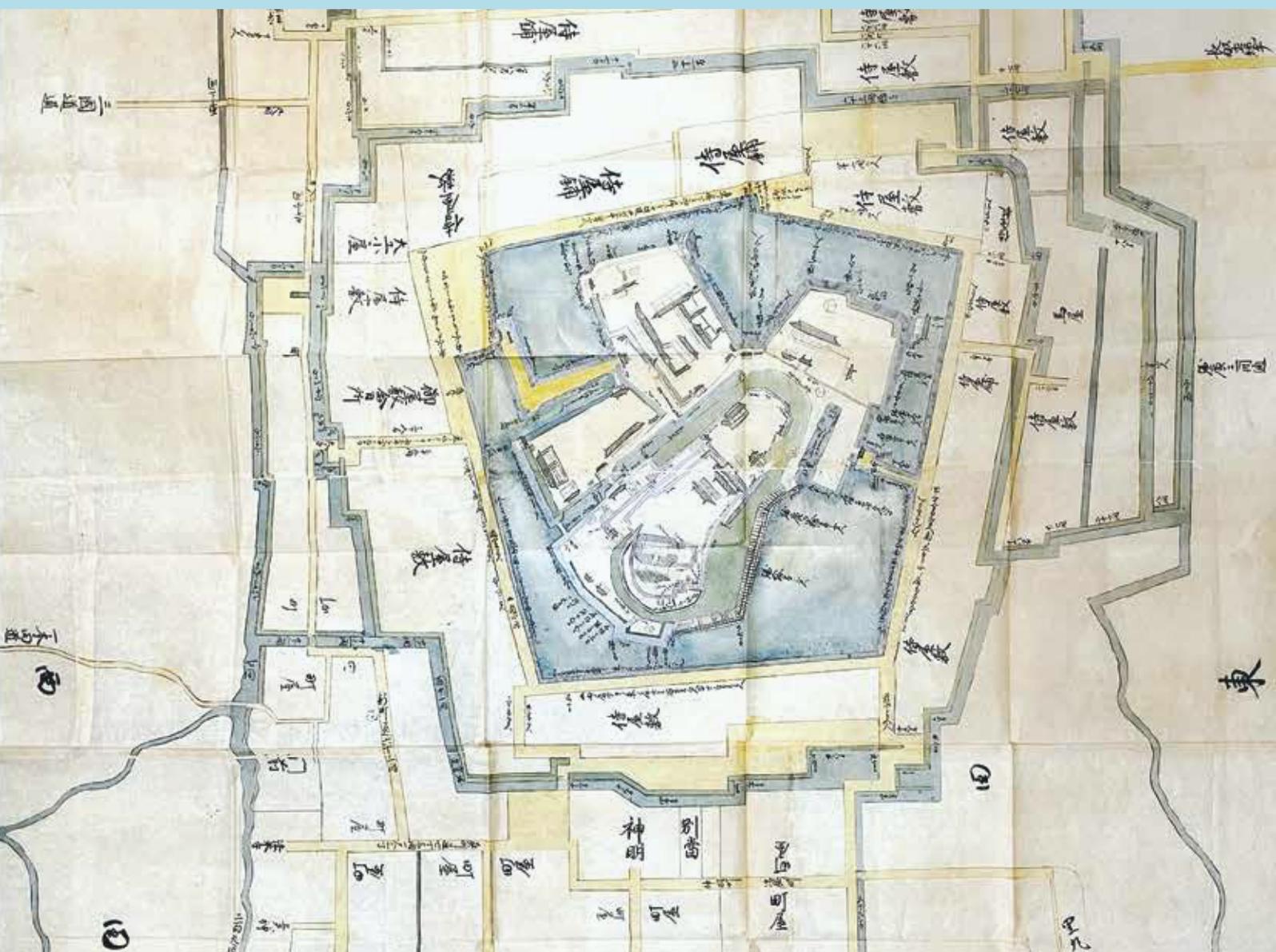


丸岡城周辺整備基本計画



2021年8月



坂井市

ご挨拶



織田信長の命により築城されたとされる丸岡城は、明治維新や福井地震など幾多の困難を乗り越え、現代まで残る木造建築の貴重なお城です。

地域のシンボルとして地元では「お天守」と呼ばれ親しまれており、春にはお城を囲むように満開の桜が咲く中「丸岡城桜まつり」が開催され、多くの観光客で賑わいます。また、「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな馬肥やせ」これは、徳川家康の家臣が陣中から妻に宛てた手紙文で、手紙文が刻まれた石碑が丸岡城に残されています。この短い手紙は、手紙のお手本としても評価されており、手紙文化の再興を目指す目的で始まった一筆啓上賞は、全国初の手紙コンクールとして広く知られるところとなりました。

長い年月をかけ育まれてきたこの素晴らしい丸岡の魅力を後世に伝えていくことが、地域のきずなを維持し、今後坂井市の豊かさの基盤になると考えております。

人口減少が進み社会情勢が著しく変化している状況の中、関係人口・交流人口の増加に繋がる観光を軸とした施策が未来に先んじて必要であると考へ、今回「丸岡城周辺整備基本計画」を策定いたしました。

皆様のご理解・ご協力のもと、丸岡城の魅力をさらに引き出し、貴重な歴史、伝統、文化などの資源を継承しながら、計画に基づき着実に整備事業に取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたりまして、貴重なご意見をいただいた丸岡城周辺整備基本計画策定委員会の委員の皆様をはじめとする関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

令和3年8月

坂井市長 **坂本 憲男**

目次

丸岡城周辺整備基本計画.....	1
1. 整備基本計画策定について	2
1.1. 経緯と目的	2
1.2. 対象とするエリア	3
1.3. 計画期間.....	4
1.4. 構成	5
1.5. 関連する計画等と整備基本計画の位置付け	6
2. 丸岡城および周辺エリアの特性と主要課題	7
2.1. 丸岡城および周辺の概要	7
2.2. 丸岡城および内堀五角形内の保存整備の経緯.....	8
2.3. 丸岡城周辺の観光まちづくりの現況.....	15
2.4. 対象エリアにおける課題の整理	16
3. 目指す姿と方針.....	18
3.1. 将来像.....	18
3.2. 基本的な考え方	20
3.3. 方針	21
3.4. 丸岡城周辺整備基本計画〔全体方針図〕	25
3.5. 対比図による整備方針	27
4. 施策.....	31
4.1. 短期施策（5年間：2021年～2025年）	31
4.2. 喫緊の課題	40
4.3. 丸岡城周辺整備基本計画〔短期方針図〕	41
4.4. 中期施策（15年間：2026年～2040年頃）	43
4.5. 丸岡城周辺整備基本計画〔中期方針図〕	47
4.6. 長期施策（30年間：2040年頃～2070年頃）	49
4.7. 丸岡城周辺整備基本計画〔長期方針図〕	51
5. 策定後の展開	53
5.1. 施策スケジュール.....	53
5.2. 推進体制.....	55
5.3. 市民等との共創・協働による推進.....	55
5.4. 検証・評価	55
おわりに	56

参考資料	57
参考資料 1	策定委員会名簿	58
参考資料 2	策定委員会設置要綱 旧要綱、新要綱.....	59
参考資料 3	策定委員会の経緯	61
参考資料 4	丸岡藩・丸岡城・霞ヶ城公園の略年表.....	62
参考資料 5	丸岡城下町絵図	65

－本文中の「復原」「復元」「再現」の表現について－

国立奈良文化財研究所¹によると

「復元」 遺跡で発掘される建物の痕跡から、上部構造を考えると。つまり、新築の建物に「ふくげん」すること

「復原」 建物の改造の痕跡をもとに、改造前の姿に戻すこと
と記されています。

復元・復原ともに元の場所に建物を建てることを「ふくげん」と言いますが、各務原市の城門の例を見ても、別の場所に建築した場合も「ふくげん」としているため、本整備基本計画では、別の場所に建てる場合も「ふくげん」として考え、次の通り整理します。

復原	復元	再現
・材料が現存	・材料無 ・資料有	・材料無 ・資料無

〔本文中の丸岡城内堀五角形の整備における表現の整理〕

	短期	中期	長期
門 (不明門・内長畝口門)	復原 (内長畝口門)	復原 (不明門)	—
二ノ丸御殿	—	—	復元
櫓	—	—	再現
門 (大手門・搦手門)	—	—	再現
内堀	再現 (南東) ※	—	再現 (北東) ※

※堀も復元に該当しますが、①水の事故②芝生広場の活用③水の管理の経費の問題から、江戸時代の元の姿にすることは困難であり、避けるべきとの考えで、「再現」と表現しました。堀のイメージの再現ということで、芝生や植栽、水盤を基本として考えています。

¹ <https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2017/01/tanken156.html>

丸岡城周辺整備基本計画

1. 整備基本計画策定について

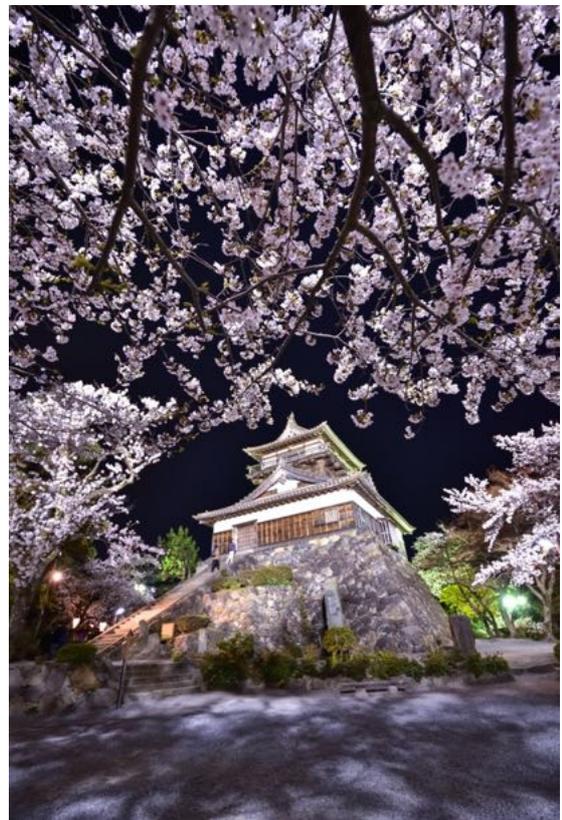
1.1. 経緯と目的

市が保有する丸岡城は、国指定重要文化財に指定され、年間約 41.3 万人（内、登城者数約 14.8 万人）²が訪れている木造現存 12 天守の 1 つであり、北陸地方唯一の現存天守です。しかしながら、1873 年（明治 6 年）廃城令による城郭建造物の取り壊しや土地などの払い下げ、1948 年（昭和 23 年）の福井地震などで城郭や街並みが失われた歴史を抱えています。これに加え、戦後の観光業が発達せず、丸岡城天守を訪れるのみの短い滞在時間の観光スタイルから脱却できずにいます。

2015 年（平成 27 年）に丸岡城国宝化推進室を設置し、丸岡城調査研究事業に取り組んできました。また、2016 年（平成 28 年）には「丸岡城天守を国宝にする市民の会」（以下、「市民の会」）が発足されるなど、公民が連携し合い、丸岡城周辺の魅力向上に取り組んでいます。

2020 年（令和 2 年）、丸岡観光情報センター（一筆啓上茶屋）の耐震性の課題から移転計画を検討しはじめたことを契機に、城周辺の総合的な政策を考えていくために丸岡城周辺整備基本計画を策定することとなりました。

本整備基本計画は、丸岡城の歴史的・文化財的価値を高めながら、地域コミュニティの醸成と周遊性の向上を目指す魅力ある観光地を実現するために、丸岡城周辺の観光まちづくりにおいて、将来を見据え大きな方向性を新たに打ち出すものです。

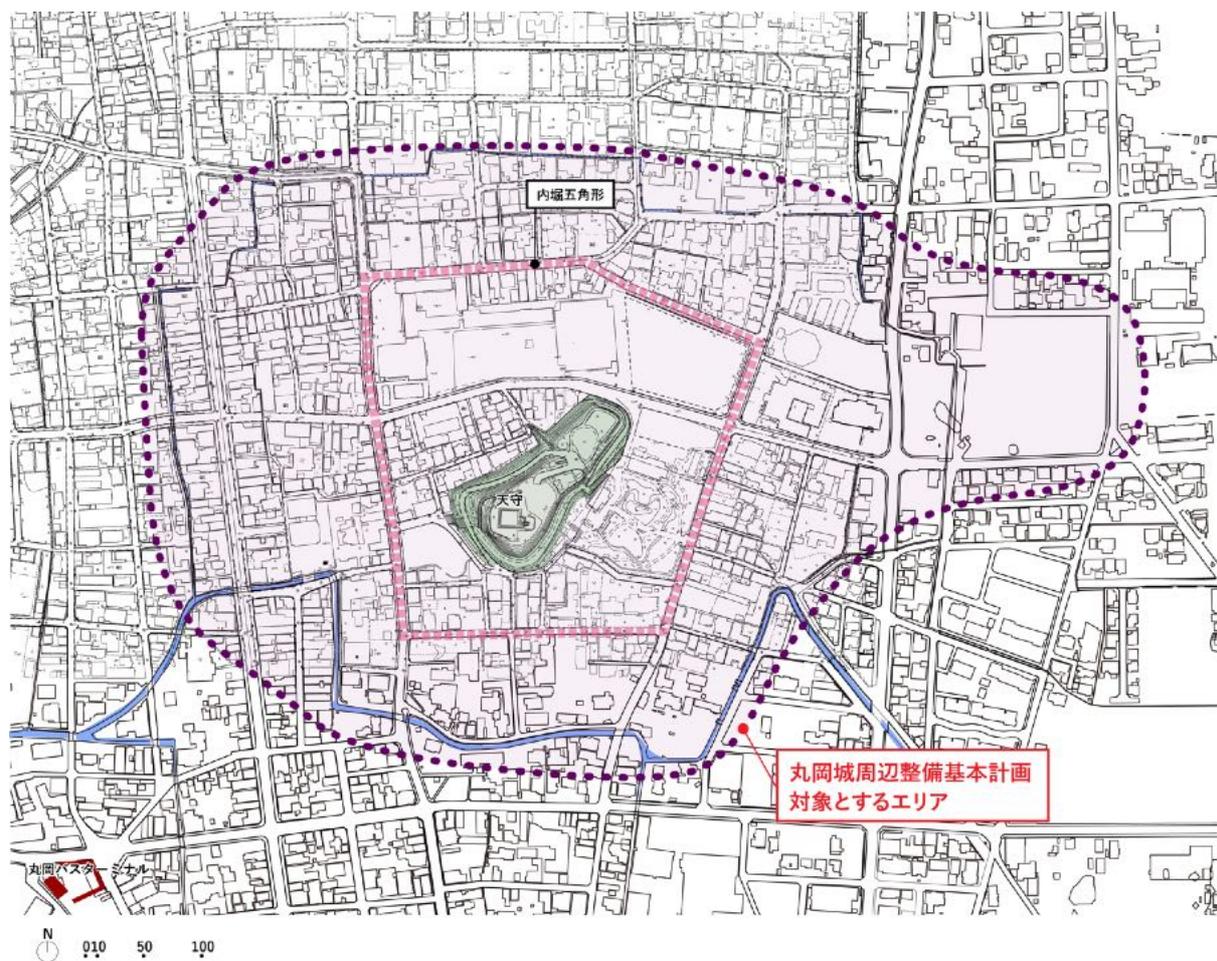


1-1 夜桜と丸岡城

² 2019 年度（令和元年度）丸岡城入込客数より。新型コロナウイルス流行後の 2020 年度（令和 2 年度）実績は年間約 14.1 万人（内、登城者数約 7 万人）

1.2. 対象とするエリア

本整備基本計画で対象とするエリアを下記図の丸岡城周辺とします。内堀五角形内およびその外周を中心に、公共施設や公有地が集約している北東、外堀南側から西側、丸岡バスターミナルを加えたエリアとし、集中的に周遊性を向上させていきます。



1-2 本整備基本計画の対象とするエリア

1.3. 計画期間

本整備基本計画で定める計画期間を 2021 年～2070 年頃までの 50 年間と設定します。「短期」「中期」「長期」に分けて施策を整理し、その推進を図ります。

短期は、内堀五角形内の霞ヶ城公園とその周辺整備を実行し、市民や来訪者に丸岡城周辺の今後の変化を印象づける強力な第一歩とします。また、中期に向けた施策を計画に落とし込む時期とします。

中期では、内堀五角形内および外堀周辺に対象範囲を拡張し、おもてなし城下町の面的な広がりをつくと共に、天守を中心とした丸岡らしい特色ある暮らし方の確立を目指していきます。

長期では、内堀五角形内の堀割再現といった、かつての城郭が想像できる整備など、時間をかけて丁寧に取り組む必要のある施策の実行を目指していきます。

また、段階毎に迎える大きな予定を節目と捉えて活かしていきます。詳細は次の通りです。

短期 5 年間 (2021 年～2025 年)

(主な予定)

2024 年：北陸新幹線金沢-敦賀間 延伸開業

〃 : 丸岡藩の誕生 400 年 (1624 年 寛永元年)

中期 15 年間 (2026 年～2040 年頃)

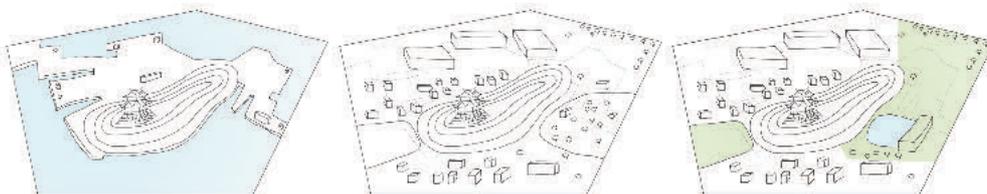
(主な予定)

2026 年：坂井市の誕生 20 年

長期 30 年間 (2040 年頃～2070 年頃)

(主な予定)

2056 年：坂井市の誕生 50 年



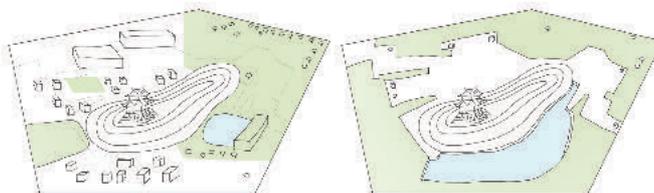
江戸



現代



5 年後



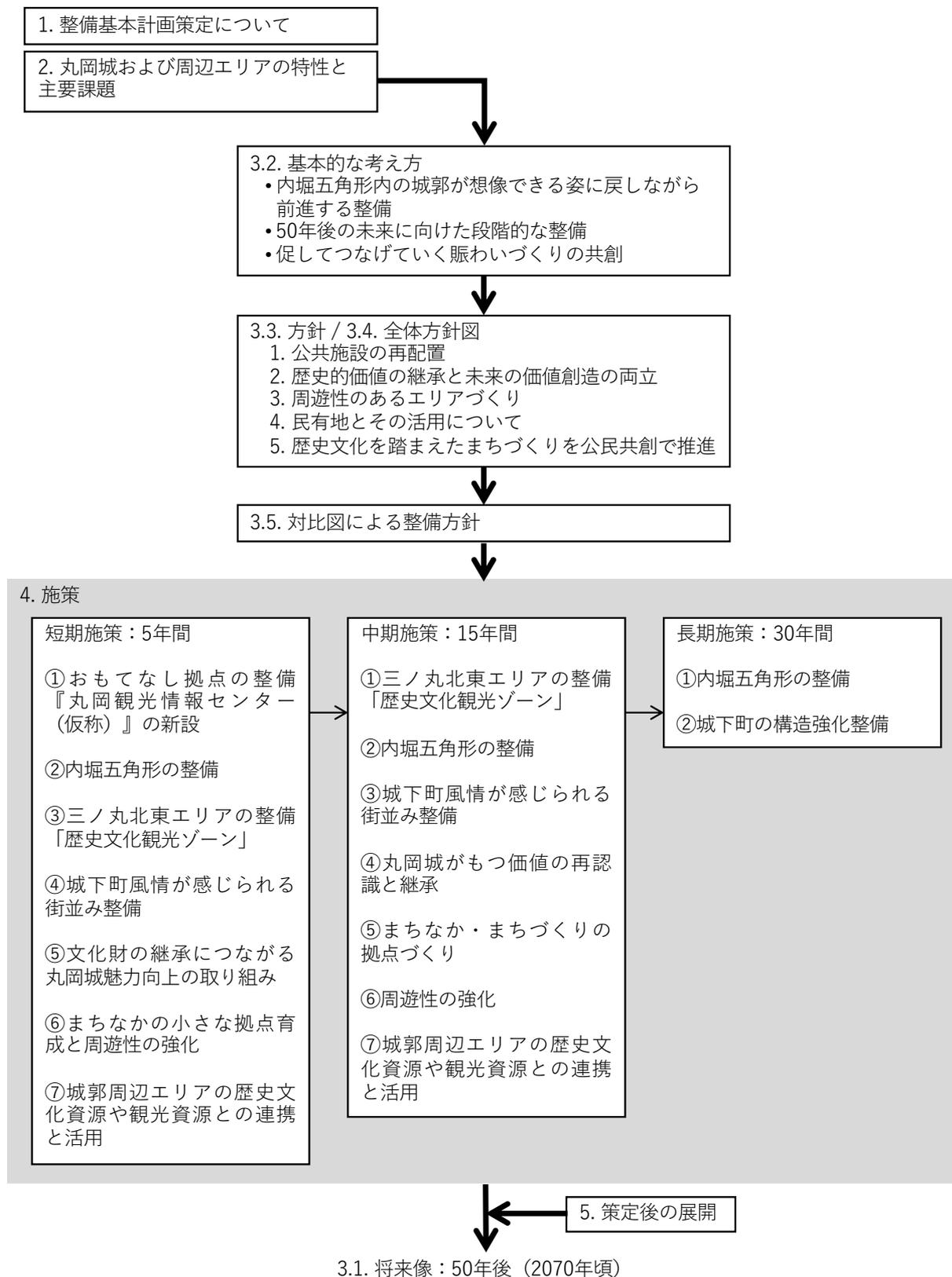
20 年後



50 年後

1.4. 構成

本整備基本計画の構成図は次の通りです。

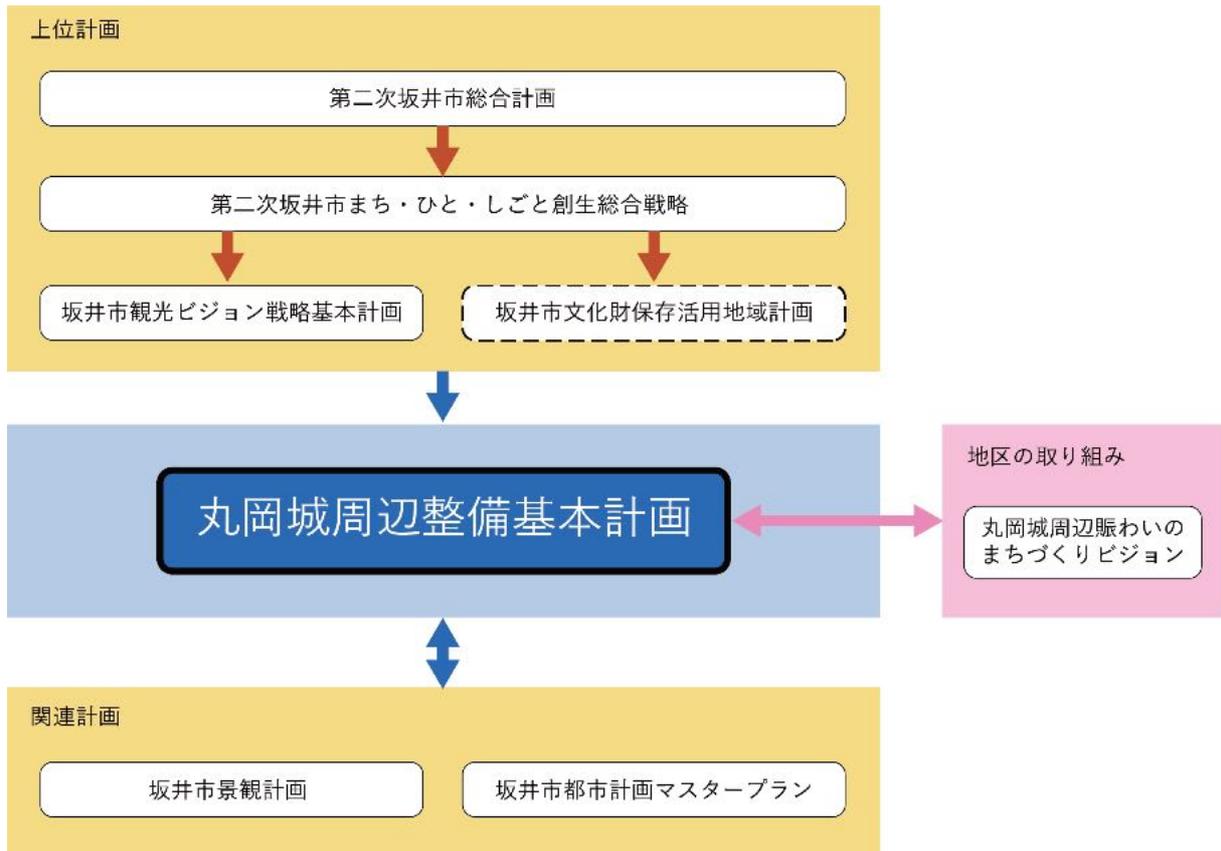


1-3 基本整備計画構成図

1.5. 関連する計画等と整備基本計画の位置付け

本整備基本計画は、市の行政計画において、次のように位置づけられます。第二次坂井市総合計画等の上位計画に基づき、関係する坂井市観光ビジョン戦略基本計画、坂井市都市計画マスタープランをはじめとする関連計画との連携を図ります。

また、第二次坂井市総合計画で関連づけた SDGs³の視点を踏まえ、事業を進めていきます。



1-4 上位計画との位置付け

³ 2015年（平成27年）に国連持続可能な開発サミットにて採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」において掲げた、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17の目標と169の取り組みが定められています。

2.2. 丸岡城および内堀五角形内の保存整備の経緯

(1) 丸岡城天守

丸岡城天守は、全国で 12 カ所のみ残る現存木造天守の一つであり、桜を始め四季折々の景観を楽しむことができます。地域のシンボルとして、保存を目的として様々な取り組みが行われてきました。

四季折々の丸岡城



2-2 桜と丸岡城 1



2-3 桜と丸岡城 2



2-4 桜と丸岡城 3



2-5 緑葉と丸岡城



2-6 椿と丸岡城



2-7 雪と丸岡城

①国宝化

1934 年（昭和 9 年）、国宝保存法に基づき国宝に指定されました。

②福井地震による倒壊と再建

1948 年（昭和 23 年）、福井地震のため天守は倒壊しました。その後、文化財保護法により重要文化財に指定され、倒壊した天守は倒壊材を元の通り組み直し、修復されました。

③市民団体の活動

2016 年（平成 28 年）春、国宝化運動を通して丸岡城の価値を高め、その魅力を多くの人々に伝えていこうと市民有志により発足した市民の会は、2017 年（平成 29 年）、これまでの活動に加え、丸岡城を中心とした周辺のまちづくりに取り組み、丸岡城および魅力ある丸岡地区を次世代に繋いでいくことを目指して、一般社団法人として法人化されました。市民の会においては、各種イベントを行うほか、2018 年（平成 30 年）には「丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン」を作成しました。

(2) 内堀五角形内

本丸を囲んでいた内堀は、大正後期から昭和初期までに徐々に埋められました。その後、公共用地、民間敷地として、土地利用が進められてきました。

内堀内の主な公共施設（建造物）は下記の通りです。耐用年数期限が近づいてきている建造物も多く見られ、建て替えを滞りなく進めていくことが必要です。

	公共施設名称 (建造物)	担当課	建設 時期	耐用 年数	耐用年 数期限	改修時期・備考
1	丸岡観光情報センター (一筆啓上茶屋)	観光交流課	1978	50	2028	大規模改修：2003 一部改修：2005
2	丸岡城国宝化推進室 (鉄筋コンクリート)	文化課	1969	50	2019	木造部分は財団所有 (建設：2003)
3	平章小学校	教育総務課	1971	47	2018	耐震工事：2012, 2013 一部大規模：2013
4	丸岡体育館	生涯学習 スポーツ課	1977	47	2024	耐震改修：2016
5	歴史民俗資料館	文化課	1978	50	2028	—
6	霞ヶ城公園管理事務所	文化課	1979	50	2029	不明
7	霞ヶ城公園管理事務所 前トイレ	文化課	1979	15	1994	改修工事：2016
8	丸岡体育館横トイレ	生涯学習 スポーツ課	1999	50	2049	和式トイレ
9	丸岡城駐車場トイレ	文化課	2002	15	2017	—
10	丸岡図書館	丸岡図書館	1983	50	2033	増築：2004 一部改修：2011
11	霞幼保園	保育課	1984	47	2031	内装工事：2020
12	一筆啓上 日本一短い手紙の館	文化課	2015	24	2039	—
13	お天守前広場トイレ	都市計画課	2019	15	2034	—

太枠内：内堀内の公共施設（建造物）

2-8 丸岡城周辺の公共施設一覧



2-9 霞ヶ城公園全体図⁴

丸岡城周辺には住宅等が集積しているエリアもあります。木造建物が密集しており、防災上の問題を抱えているほか、近年では、空き家も発生しています。

住宅等が集積しているエリアでは、2020年（令和2年）に、市民の会により、空き家改修による城小屋マルコがオープンし、お城ファンの拠点となっています。また、買取により公園・広場整備なども行われ、丸岡城を活かした土地利用の更新が行われています。

⁴ 出典：地区公園「霞ヶ城公園」基本計画平面図（2009年作成）

空中写真で見る変遷



2-10 福井地震前 1946年⁵



2-11 福井地震後 1965年頃⁶



2-12 1975年頃⁶



2-13 現在 2016年⁶



2-14 ドローンからの内堀五角形 2018年⁷

⁵ 出典：国土地理院

⁶ 出典：坂井市 WebMap (1965年頃、1975年頃、2016年頃の写真も同様)

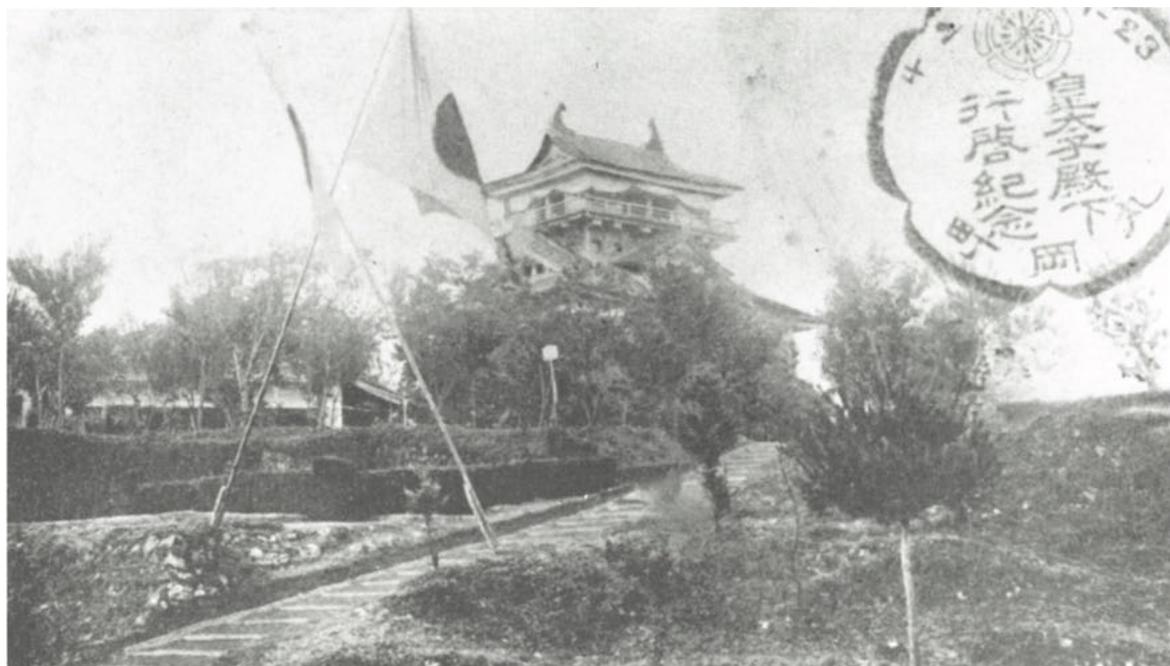
⁷ 写真提供：公益財団法人丸岡文化財団 (2018年8月29日撮影)

(3) 城周辺

旧丸岡町時代から「丸岡町景観づくり基本計画」（平成5年/1993年）、「うるおい・緑・景観まちづくり整備計画書」（平成8年/1996年）、「丸岡城周辺基本構想」（平成13年/2001年）、「丸岡町中心市街地活性化基本計画書」（平成15年/2003年）などで取り組んできた城周辺整備の成果を踏まえながら、中長期的な視点に立った取り組みと広域の観光資源との連携を考慮した、更なる賑わい創出のための施策の発展が求められています。

写真でみる丸岡城と周辺のあゆみ⁸

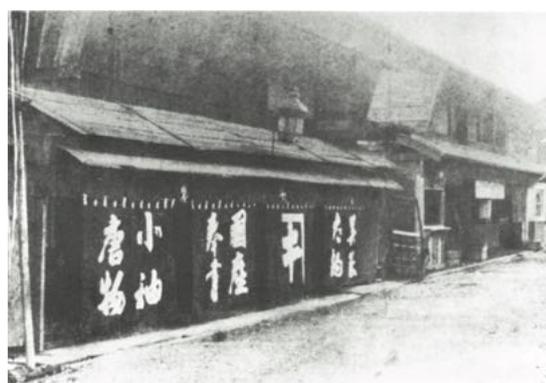
明治時代



2-15 明治42年の丸岡城天守^c



2-16 野球を楽しむ児童^c



2-17 町内呉服商の店先風景^c

⁸ 出典：明治時代、福井地震と復興、昭和50～60年代の写真は、A：『丸岡町震災復興誌』（昭和25年、丸岡町）、B：『重要文化財丸岡城天守修理工事報告書』（昭和30年3月、重要文化財丸岡城天守修理委員会）、C：『百年のあゆみ』（平成元年、丸岡町）、D：『お天守がとんだ』（平成12年、丸岡町）より

福井地震と復興



2-18 福井地震後の天守^D



2-19 復興で活躍した人々より、消防団幹部^A



2-20 天守修復の様子^B



2-21 天守修復に携わった大工達^D



2-22 修復後の天守^B



2-23 震災復興記念碑^A



2-24 昭和 25 年頃 復興後の谷町通り^C

昭和 50～60 年代



2-25 丸岡城築城四百年記念祭^C



2-26 大名行列と子供踊り^C



2-27 200 万人突破^C



2-28 旧丸岡町役場新庁舎完成^C

現代



2-29 丸岡城桜まつり
(丸岡城桜まつり振興会)



2-30 丸岡古城まつり
(丸岡古城まつり実行委員会)



2-31 田島川清掃の取り組み
(城のまちまちづくり協議会)



2-32 城見の宴
(市民の会)



2-33 城小屋マルコの前で
(市民の会)

2.3. 丸岡城周辺の観光まちづくりの現況

(1) 丸岡城周辺の観光の現状

丸岡城周辺観光の現況として、次の取り組みが行われています。これらの取り組みを継続し連携しながら、展開させていくことが期待されます。

- ・ボランティアガイド（天守の案内、称念寺の案内）
- ・丸岡城桜まつり（4月1日～4月20日ぼんぼり点灯、4月1 週目の土日にイベント開催）
- ・丸岡古城まつり（10月上旬）
- ・丸岡バスターミナル交流センターでのイベント実施
- ・丸岡城のプロジェクションマッピング
- ・一筆啓上日本一短い手紙の館
- ・久保田酒造、油揚げ、丸岡産そば

以上に加えて 2021 年度には次の事業を実施しています。

- ・レンタサイクル事業
- ・丸岡回遊推進アプリ運用開始（レンタサイクル事業関連）

(2) 丸岡城と歴史的に関連する観光資源との連携

丸岡城が築城される前の拠点だったとされる豊原寺跡や、丸岡藩主であった本多家菩提寺の本光院、有馬家菩提寺の白道寺、高岳寺、台雲寺、丸岡藩主が庭園を楽しみに訪れたとされる久保田酒造や受法寺、そして称念寺など、丸岡城周辺には歴史的にも関連の深い観光資源が多くあります。

また、東尋坊を有する三国町には、丸岡藩砲台跡（国史跡）や三国湊（滝谷）があり、坂井市域には丸岡城と関連の深い観光資源が多く残っており、これらと連携した観光振興と各拠点の環境整備を進めて行くことが必要です。

坂井市内の主な観光地（施設）・行事の観光客数（令和元年）

東尋坊	1,414 千人
丸岡城	413 千人
三国湊町散策	71 千人
丸岡城桜まつり	84 千人
竹田の里しだれ桜まつり	60 千人
三国祭	137 千人
ゆりフェスタ	93 千人
三国花火大会	230 千人

2.4. 対象エリアにおける課題の整理

課題 1. 「天守しかない」現状

明治6年の廃城令によって、城郭内の敷地、建造物、門、樹木などの払い下げで、丸岡城天守以外の建造物を取り壊されお堀が埋め立てられたことや、昭和23年の福井地震により、城郭や街並みが失われた歴史があります。これにより、歴史や文化を語るものの多くが消失してしまったと言えるでしょう。主だった道筋は残されているものの、新しい街が形成され、現在は城下町を感じる事が難しく「天守しかない」ことが大きな課題の一つとなっています。

課題 2. 施設の老朽化、桜の高齢化

丸岡観光情報センター、歴史民俗資料館、丸岡城国宝化推進室、丸岡図書館など、内堀五角形内の公共施設（および隣接する公共施設）は耐用年数を迎つつあります。建て替えなどの時期を内堀五角形内整備好機と捉え、早急に対応していくことが必要です。

また、「日本さくら名所100選」に選ばれていますが、寿命60年～70年といわれるソメイヨシノが高齢化しており、計画的な植え替え等の対応が求められます。

課題 3. 景観・眺望の乱れ

天守付近にある建造物や一部の樹木が、現存天守としての風格を感じさせる眺望・美観を損ねています。周辺には昭和に新たに建てられた3,4階建ての建造物も多く、城山が小さく低いことから、街中での天守への視点場が少なく、来訪者にとってどの方向に天守があるのかが分かりづらい状況です。

また、現在、丸岡観光情報センター前に駐車場が設けられていますが、天守を望むことのできる現在の位置に規模の大きい駐車場があることは、景観上も望ましくありません。丸岡城周辺の公共駐車場の配置について整理していく必要があります。

課題 4. 歴史的・文化的資源の調査不足

主に内堀五角形内の歴史的・文化的資源の歴史的価値を裏付けるための発掘調査が進んでいないことが課題です。発掘調査を行い、城絵図等の歴史的資料との整合性を確認していくことが必要です。

課題 5. 丸岡城の歴史の展示・情報の発信が不十分

丸岡城および内堀五角形についての展示、情報の発信が不足しています。歴史資料の調査研究を進め、重要な資料の取得、保存・保管、展示を行い、丸岡城の価値を高めていくことが必要です。

課題 6. 周遊を促す契機が少ない

施設が点で整備されていますが、これらを周遊するようなきっかけをつくる面的整備ができていません。結果、来訪者は滞在時間が短くなり、市民は暮らしの一部として城周辺を活用しづらい状況を生み出しています。

例えば、霞ヶ城公園から城山南側を通る周遊性がつくられていないこと、丸岡バスターミナルから天守までを繋ぐ動線が弱く、歩きたくなるような魅力的な要素が少ないことなどが現状として挙げられます。

課題 7. 城下町風情・一貫性の欠如

包括的な整備計画に基づいて公共施設や公共空間が整備されていないため、美しい景観づくりがなされておらず、城下町の風情が醸成されていません。

近年では、歴史的な検証のもとに堀割などの復元や再現を行い、かつての城郭、城下町が想像できるような城郭周辺整備が主流となっています。

丸岡城周辺の場合、城郭や城下町の構造は残されているため、これらを活かした整備を推進していくことが大切です。

課題 8. 活用できていない歴史的な地域資源

城郭の構成要素である道筋、外堀の水路、神社仏閣など、残されている歴史や文化を感じる地域資源が十分に活かしきれいていません。例えば大切にしたい内堀五角形は、全国でも珍しい縄張りだとも言われていますが、遊歩道がなく、安全に楽しく一周することができない状態となっています。

課題 9. 空き店舗・空き家の増加と公共空間のみの拠点整備による歪み

丸岡エリアも全国同様、街中の空洞化がはじまり、空き店舗・空き家が増えつつありますが、これらの利活用はまだ数軒程度であるのが現状です。また、武家屋敷や町家といった城下町を構成する歴史的な家が残されておらず、現代建築による空き家のため、利活用のハードルが高くなるといった実態があります。

このように公共施設や公共空間の新設整備は進められてきた一方、空き家等は放置されつつあり、城周辺の活用に歪みが生じています。

課題 10. 天守はあるものの、観光業との結びつきが希薄

大正から始まった織マークや織ネーム、越前織といったものづくり産業が栄えてきた一方で、観光業は十分に発達してきませんでした。民間による観光業（参入）への支援が十分でないことも挙げられます。来訪者の受け入れを意識した飲食店や商店も少なく、現在、主だった宿泊施設は1軒⁹しかありません。

新幹線開業を見据え、丸岡城を中心に、これらの地場産業や、丸岡産そば、日本酒など観光資源の充実を一層図っていくことが求められています。

⁹ 市民の会が、2021年春より、寺泊（宿坊 妙光寺）を開業しました。